



2024年度 pool事業 進捗報告書

廃プラスチックのリサイクルに係る情報プラットフォーム構築

***公開版 - Follow-up Report**

2025年3月

Contents

1. 本実装化事業のスキームと実績
 2. 情報プラットフォーム“pool”の活用と新機能の実装
 - テナント個別のダッシュボードによる分別意識啓発(new!)
 - 調達アカウントによるサプライチェーン管理
 - ステーション機能による面的資源管理(new!)
 3. Pool事業採用事例 *東京都補助活用事例
 - 玉川高島屋S・C
 - 白洋舎
 4. 今後の展開
 5. 参考 - Embedded Links
 6. Circular Design Tool - pool
-

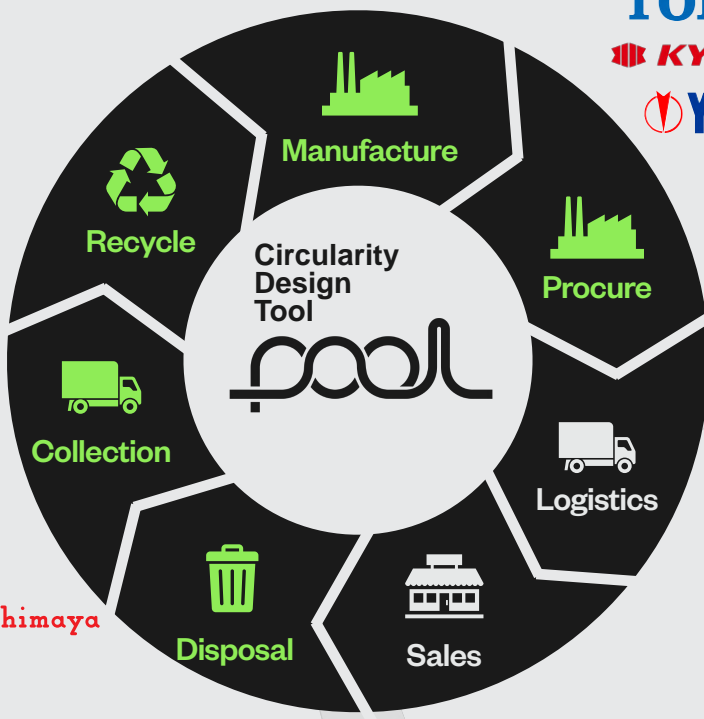
1. pool事業のスキームと実績

事業主体・統括

RECOTECH

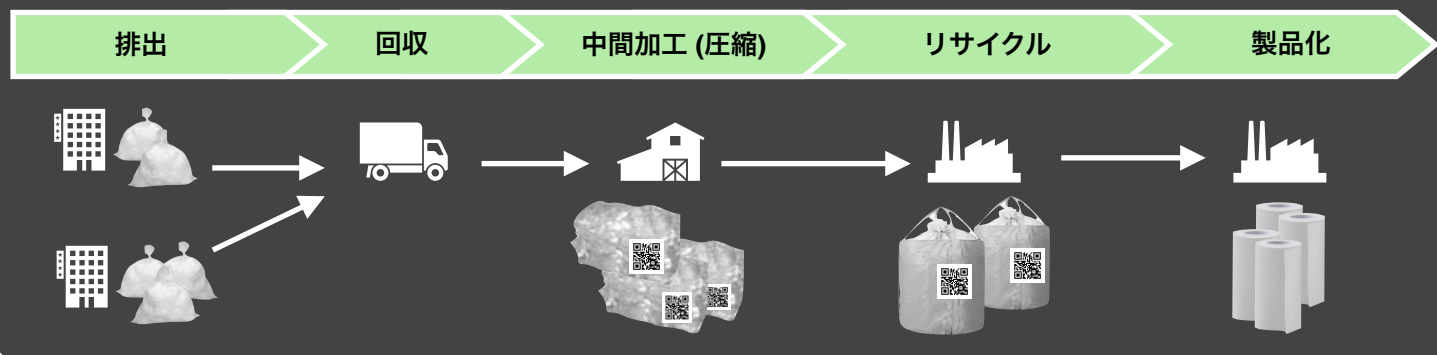
Supported by

東京都 ALLIANCE TO END PLASTIC WASTE



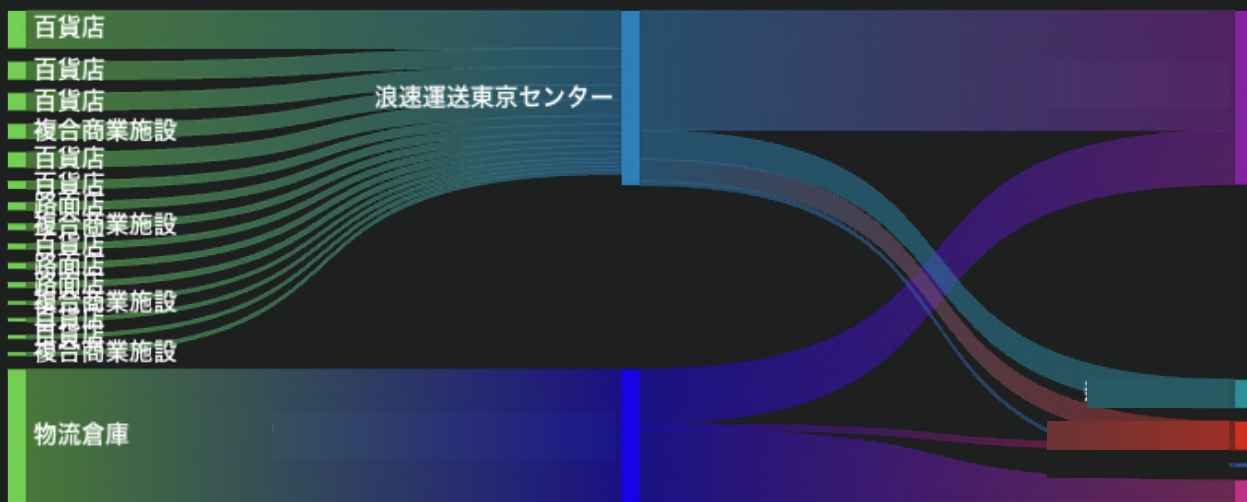
*参加企業の一部のみを掲載

[pool事業における資源と情報の流れ]



[2023年度のpool事業のマテリアルフロー図]

*pool調達ダッシュボードから出力
対象期間：2024/03~2025/03



2. 情報プラットフォーム “pool” の活用と新機能実装

NEW!!

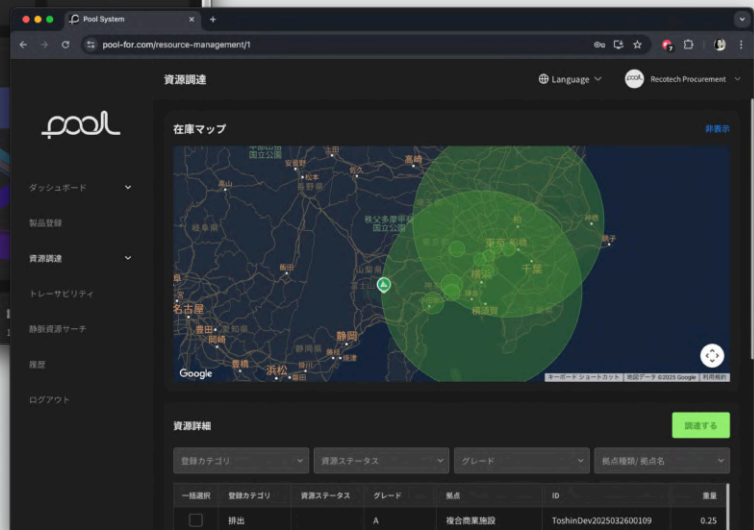
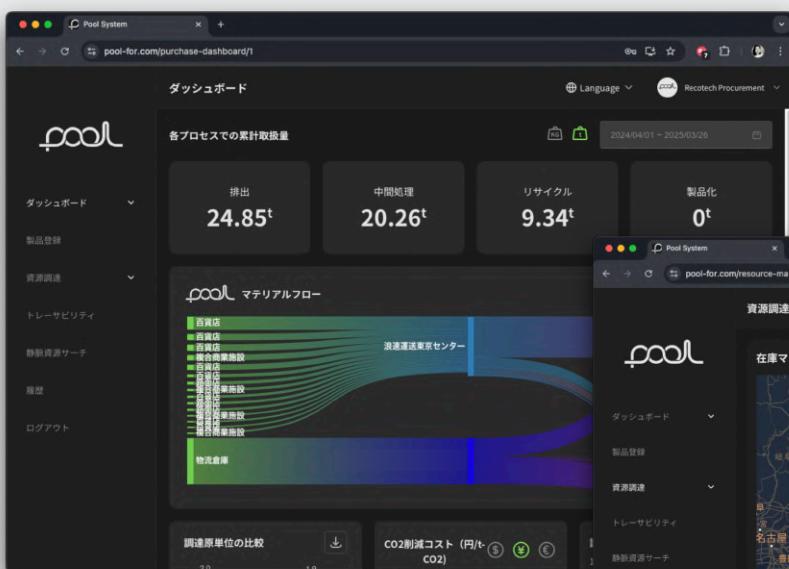
テナント個別のダッシュボードによる意識啓発



- ◆ 複数のテナントが入居している商業施設では、各テナントが自店舗のデータのみアクセスできるダッシュボードを実装
- ◆ 廃棄コストの可視化や、同業の他店舗と比較したリサイクル率や廃棄量のランキングにより、テナントスタッフへの廃棄量削減・分別に対する意識啓発が可能

調達アカウントによるサプライチェーン管理

- ◆ 2024年6月にマテリアルフロー・トレーサビリティ・在庫管理の機能を実装した調達アカウントをリリース
- ◆ 実際に静脈サプライチェーンを通して排出・回収・中間処理・リサイクル・製品化・調達の各ステークホルダーが利用し、UI/UXを随時改善



2. 情報プラットフォーム(poolシステム)の活用と新機能実装

NEW!! ステーション機能による面的資源管理

- ◆ 排出事業者が登録した資源を、資源を管理する単位である「ステーション」ごとに可視化・分析する機能を実装
- ◆ エリア単位・ステーション単位での循環資源の賦存量をマッピングし、最適な回収の配車ルート of AI 分析に活用
- ◆ 蓄積した廃棄データから、調達可能な材料ごとの発生予測機能を実装。廃棄物処理基本計画や自治体単位での資源循環向上のためのデータベースとして活用。



横浜市とpoolによる廃棄物のデジタル管理で連携協定を締結

- ◆ 横浜市と「デジタル技術を活用した市役所ごみゼロルート回収の高度化事業」に関する連携協定を締結
- ◆ poolシステムの独自技術を活用し、以下を実現します：
 - 1) 廃棄物データの効率的な集約と管理オペレーションの改善
 - 2) 外部サービスとの連携による収集運搬ルート of 最適化
 - 3) 環境負荷の継続的な低減

*詳しくは[参考3. ニュースリリース](#)を参照

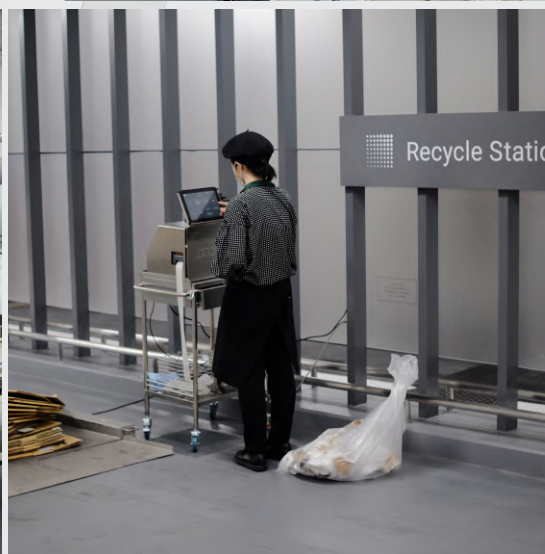


3. pool事業採用事例 *東京都補助活用事例

玉川高島屋S・C

- ◆ 玉川高島屋S・Cの塵芥室のリニューアルに伴い、廃棄データの可視化と塵芥室全体のデザインを通して「ごみの終着点から資源としての始発点に」をコンセプトとした“Recycle Station”をオープン。
- ◆ 廃棄データの取得・管理業務DX化・テナントへの啓発・対外的な循環性のコミュニケーションツールとしてpoolシステムを採用

詳細は[こちら](#)をご参照ください



白洋舎

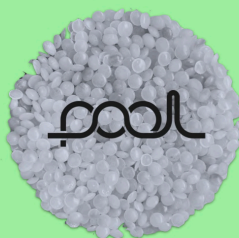
- ◆ クリーニング業界初の取り組みとなる、トレーサビリティを担保したプラスチックの材料リサイクルループの実現を目指し、衣類用カバーとレンタルユニフォームの回収・リサイクルを開始



包装用ビニールの回収



再生ペレット化



RECOTECH

再生プラスチック製品化



4. 今後の展開

2022年の排出事業者向けの機能を中心としたpoolシステムのローンチ、2024年の調達機能のリリースを経て、現在、静脈サプライチェーンのすべてのステークホルダーに資源循環情報プラットフォームとしてpoolシステムを利用いただくようになった。また、大手アパレルブランドの路面店・倉庫からの回収の開始や、アトレ川崎の新規参加などの参加企業による拠点の横展開などから、プラスチックの回収・循環量は昨年の約5倍に拡大し、事業における経済的な持続可能性も達成しつつある。さらに、衣類カバー以外の資源の資源循環プロセスでのpoolシステム利用も増加している中で、引き続き各静脈サプライチェーン特有の情報管理ニーズを順次poolシステムに反映させていくとともに、AI技術を活用した配車最適化やデータ分析、他システムとのAPI連携を進める。

5. 参考 - Embedded Links

1. [2023年度 pool社会実装化事業 実施報告書](#)
2. [poolシステム - 複数拠点の廃棄物計量管理が圧倒的に楽になる](#)
3. [RECOTECH、横浜市とpoolによる廃棄物のデジタル管理で連携協定を締結](#)
4. [poolによる次世代型廃棄物管理で、玉川高島屋S・Cが資源循環の最前線へ](#)
5. [玉川高島屋S・C Recycle Station Project Report by RECOTECH](#)


6. Circularity Design Tool - pool


poolは、資源価値の終わりを始まりに変えるクラウドサービスです。都市資源をpoolでデータ化することによって回収効率を高め、リサイクル材を活用したい製造業者と排出事業者を繋ぎ合わせて循環型サプライチェーンをデザインします。ごみの発生から、運搬、リサイクルのすべての過程で、スマホやタブレットで簡単に情報連携することで、リサイクル材を活用する上で欠かせない「どこから」「どのようなプロセス」を経てリサイクルしたかのトレーサビリティ情報とスコープ3カテゴリ1・5のCO₂排出量情報を提供します。



RECOTECH

RECOTECHは、「世代間責任を果たす」をミッションに掲げるClimate Tech Startupです。現在の廃棄物の仕組みは、焼却もしくは埋め立てがほとんどで、次世代に負債を残している状況です。テクノロジーでこの構造に変革を起こし、ネイチャーポジティブな経済発展ができる社会をつくることを目指しています。

 <https://recotech.co.jp/>

 info@recotech.co.jp